

東光寺報

●編集・発行
曹洞宗 東光寺
☎359-0012
所沢市坂之下383番地
TEL/04-2944-3531
FAX/04-2945-2408

「一息半歩」

東光寺住職
洪谷俊成



檀信徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今年度は能登半島に今一度大きな地震がおこりました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

思い返せば、平成19年の能登半島地震の際、私は永平寺に修行に行つたばかりのころでした。福井県ではそれほど揺れではありませんでしたが、とても大きな被害があったのを後から知りました。あれから17年が経ち、能登にあります總持寺祖院というお寺も復

興が済んだところでしたが、此度の地震でまたしても建物に大きな被害が出ました。改めて自然の脅威に恐怖するばかりであります。

曹洞宗の修行の主となるのは、坐禅です。坐禅をするときは概ね40分座りますが、続けて坐る時は間で5分ほど歩く時間が入ります。経行といって坐禅して坐っていた場所の周りを歩いて足の痺れ等をとるわけですが、この時歩くのは普通の速度ではなくとてもゆっくり歩きます。一息半歩、一回呼吸すること半歩足を出します。変わった歩みの仕方ですが、経行は歩く坐禅とも言われています。

普段の日常なかで心を落ち着かせて何もしないでいるというのは中々できないことでもあります。困難なときにはなおさらです。どんな時でも冷静であることは難しい事ですが、心を落ち着かせることはよく考え、一歩でも半歩でも前に進む努力を続けていくことが困難を乗り越えていく為には必要なのだと思

います。
もうすぐお盆の時期となります。ご先祖様が残してくれた言葉や想いを思い

東光寺の近況



皆さま、こんにちは。

昨年の「東光寺報」第22号でご挨拶をさせていただきましてから早や1年が経ち、間もなくお盆供養の月を迎えようとしています。

この一年有余を振り返りますと、何といっても大きなできごとは、当山二十八世和尚様の三十三回忌法要に合せて執り行われた現・洪谷俊成師の晋山式でありました。歴史に残る大事業（大行事）でありましたが、コロナによる人数制限がありましたので、とてももったいなく思いました。

しかし、そのほかには施設全体の維持管理等において、本堂床下の白アリ退治や附帯建物の補修、さらには本堂内部の照明のLED化が行われました。3月10日に開催した管弦

出し、これからの歩みを進める力となりますよう。お祈りいたしますよう。
合掌

檀徒会会長

木下公夫

楽三重奏の演奏会は、本堂の高い天井が醸し出す重厚な音響効果に加え、演奏者とそれに聞き入る観客者が一体となって、荘厳な舞台が展開されました。

本堂における崇高な生演奏に触れたお客様、特に子供さん達にとつては終生忘れることのできない感動となつて、豊かな心を育んでいただけたのではないかと感じました。東光寺の独自の事業として、これからも末永く続けていただけたらとても有難いことだと思ひました。

また、この度、これまでの東光寺報のいくつかを讀ませていただきましたが、改めて総本山永平寺を始めとして多くの修行を重ね、耐え抜いて来られた俊成師が当山東光寺にご就任いただいたことに、切に感謝を申し上げます。

私も、微力ではありますが、今後とも檀信徒の皆さまから多くのお声をお聞かせいただき、本会のより良き運営と発展を目指すとともに、皆様のご愛護によるご指導・ご鞭撻を切にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

春の金毘羅山大祭



春の金毘羅山大祭が今年の3月10日に行われました。コロナにより中止させていただいておりました催し物を4年ぶりに本堂にて柳瀬郷土史研究会の紙芝居とラテン系音楽の歌と演奏（ボーカル ふくださとみ、ギター 佐々木じょうじ、サックス・フルート 富永正寿）となりました。

沢山の方に来ていただきありがとうございました。来年も催し物を予定しておりますので、是非ご来山いただければと思います。



昨年十二月に役員の本下章様が亡くなりました。多大なるご尽力を頂きありがとうございました。心から冥福をお祈りいたします。

役員訃報

一	三	七	十	十	一	令
周	回	回	三	三	三	和
忌	忌	忌	回	回	回	六
令	令	平	平	平	平	年
和	和	成	成	成	成	回
五	四	二	二	二	二	表
十	十	十	十	十	十	
回	回	回	回	回	回	
忌	忌	忌	忌	忌	忌	
昭	平	平	平	平	平	
和	成	成	成	成	成	
五	四	四	四	四	四	
十	年	年	年	年	年	
年						

相談窓口

特別に相談のある方は、電話で予約され御来山下さ。

毎月十日は金毘羅山の縁日となっています。皆様ぜひご参詣ください。